

■ 野々市市都市計画マスタープラン 地域別説明会 意見対応表

説明会実施地域	意見	対応
北部地域	野々市駅周辺の高架下について、地域活性化の観点から活用できないか。	貴重なご意見として承り、今後の市の政策の参考とさせていただきます。
北部地域	地元住民も買い物できるまちづくりを進めて欲しい。	北部地域においては、駅周辺を都市機能集積地区と位置付けており、商業機能も含めた施設の誘導を図る方針です。
西部地域	市の政策の中で、芸能・芸術分野が不足している。金沢市の東山地区などは活動が活発であり、参考にならないか。	貴重なご意見として承り、今後の市の政策の参考とさせていただきます。
南部地域	人口減少を前提とした計画となっているが、市は住みよさランキング1位ということもあり、今後も住みたい人が多いのではないか。 宅地整備により人を呼び込むために、農業振興地域の宅地化も必要である。	野々市市の人口は、2035年頃までは増加するが以降は減少に転じることが予測されており、本計画は20年後も見据えた方針であるため、将来的な人口減少に対応した都市計画が必要であると考えています。 今後の人口動向も踏まえながら、市街地規模の適正化を図る必要があると考えていますが、令和元年に郷町地区や長池地区で新たに住宅地の市街化区域の編入を行っており、2035年頃の人口ピーク時の定住の受け皿は確保しています。
南部地域	どのようにして財政を健全にしていくのか。企業誘致や人口増加対策が必要である。	産学官連携を進め、企業の本社機能移転の誘致や次世代産業の創出・育成、創業支援を進める方針です。（第二次総合計画より）
南部地域	農業振興地域について、農業サイドとどのように調整しているか。具体的な施策が分からない。農業サイドとの調整はしっかりとって欲しい。	農業振興地域整備計画を同時に見直しており、担当部局と連携・調整しながら計画を検討しています。農業振興地域の具体的な施策は同計画で位置付けています。
南部地域	地域の全体方針の「集落環境の維持、活用」は、現状維持のような表現に感じられる。 市街化調整区域の集落では、若者が市街化区域へ転出しており、高齢化、人口減少の進展により、コミュニティ維持が困難である。	「既存集落の活用と良好な居住環境の確保」の表現に修正します。
東部地域	将来都市構造の防災拠点について、中央公園のみとなっているが、北部地域では踏切などがあり、現実的には避難しにくい。近年の水害リスクを踏まえた防災拠点のあり方について検討が必要である。	野々市中央公園は、拡張により防災機能の強化を図る方針であり、市全体の防災の核となる施設です。都市構造を示すうえでは当該公園のみを防災拠点として位置付けていますが、その他の一次避難所については、地域防災計画において位置付けています。

説明会実施地域	意見	対応
東部地域	人口増加により、住宅地が不足すると考えられる。農業振興地域の土地利用のあり方について検討が必要である。	今後の人口動向も踏まえながら、市街地規模の適正化を図る必要があると考えていますが、令和元年に郷町地区や長池地区で新たに住宅地の市街化区域の編入を行っており、2035年頃の人口ピーク時の定住の受け皿は確保しています。
東部地域	市街化区域内の農地の防災への活用として、雨水、内水の根拠づけが必要である。	今後、田んぼダムの実証実験を実施する予定であり、防災への活用の実現性について検証していく予定です。
東部地域	税収増加のための観点として、企業誘致の方針などを反映してはどうか。	産学官連携を進め、企業の本社機能移転の誘致や次世代産業の創出・育成、創業支援を進める方針です。（第二次総合計画より）
東部地域	歩けるまちづくりを進めるためには、高齢者の歩行や自転車の動線・経路を確保する必要がある。都市計画道路窪野々市線の取り扱いをどうするか。歩けるまちづくりとして交通量を絞る必要がある。拡幅すると、街路の雰囲気が変わってしまう。都市計画決定からの除外も含めた検討が必要である。	北国街道まちづくり基本計画（R4.3）の状況を鑑みながら、歩けるまちづくりの取り組みを進めていく方針です。
東部地域	空き家の活用について検討を進めて欲しい	北国街道まちづくり基本計画（R4.3）を策定しており、空き地・空き家を活用する事業の展開を進める予定です。

■ 野々市市都市計画マスタープラン 緑の基本計画 パブリックコメントの意見対応表

お住いの地域	計 画	ページ	意 見	対 応
東部地域	都市計画 マスタープラン	64	「JR北陸本線」 「(2024年春に北陸新幹線敦賀延長開業に伴い、IR石川鉄道に移管)」と注記しておくといいのではないか。	JR北陸本線の記載の始め(P35)に注記(「北陸新幹線敦賀延長開業に伴い、IR石川鉄道に移管予定」)を記載し、「以降同様」とします。
東部地域	都市計画 マスタープラン	88	「① 避難所等における感染症対策」 避難所(指定避難所、およびそれ以外で避難所として用いる施設)において、感染症対策や災害弱者対応の強化のために、トイレの洋式化、多機能トイレ・男女共用トイレの整備も推進してほしい。	貴重なご意見として承り、今後の市の政策の参考とさせていただきます。
東部地域	都市計画 マスタープラン	88	「② 多様な移動手段の確保」 通勤・通学や買い物等の移動時において、密集・密接を避けるため、公共交通だけでなく、自転車や徒歩などの多様な移動手段の確保やその環境整備を推進します。」 SDGs推進の観点からも、野々市市の平坦な地形を生かして、その環境整備に、自転車レーン(自転車専用通行帯)の設置も施策に取り入れてほしい。	貴重なご意見として承り、今後の市の政策の参考とさせていただきます。 本計画ではP73の⑤ゆとりとうるおいあるみちづくりにあるように、ゆとりある自転車走行空間の確保に努める方針です。
南部地域	都市計画 マスタープラン	13	人口減少、少子化・超高齢社会の同時進行に対して、後述の農業振興地域にどのように反映しているのか疑問を感じる。	農業振興地域における方針については、関係部局と連携・調整しながら検討しており、具体的な施策については、同時に見直している農業振興地域整備計画で位置付けています。
南部地域	都市計画 マスタープラン	23	産業分類別就業者数の整理において、第1次産業(農業)の文章が都市における農産物供給源としか読み取れない表現となっている。	本文中にあるように「農業は地域に必要な生活基盤」とし、農産物の供給源だけでなく、様々な生活基盤として維持、活性化していく方針としています。
南部地域	都市計画 マスタープラン	25	既存の農地に対する文章について、農地の多様な機能を有効に発揮するとはどんなことを意図してるのか。農地は主体的には農業生産のために存続させるのではないのか。	表現を修正します。 「多様な機能」⇒「防災や景観等の機能」 農業生産も含めた「農業」を振興するのはもちろんのこと、農地の持つ多様な機能も活用していく方針としています。

お住いの地域	計 画	ページ	意 見	対 応
南部地域	都市計画 マスタープラン	28	「本市の貴重な緑としての田のバランスの取れた土地利用の誘導」という表現について、田は都市部の慰みものなのかと感ずる表現である。	都市部のために田があるということは意図しておらず、どちらも主として本市全体のバランスをとっていく方針としています。
南部地域	都市計画 マスタープラン	29	「一方、市街化を抑制する・・・都市計画法上定められています」ということを記述している意図は何か。この地域に住む方の視点からこの表現はよいのか。	本項目は、都市計画の区域区分の指定状況について、都市計画法上の位置づけを示したものです。
南部地域	都市計画 マスタープラン	50	「自然的景観では、たわわに稲が実る田園風景」、「自然的景観は市民に憩いとやすらぎを与える良好な緑として保全・活用していく必要があります」の表現について、農業地区は明らかに都市部者のための慰みものであり、農業生産の場ではないということではないか。	本項目はあくまでも本市の景観資源について整理した箇所であり、そのなかで田園の有する自然景観について記載しています。本市は大規模な森林や海を有しておらず、田園風景は貴重な自然的景観として認識しています。
南部地域	都市計画 マスタープラン	52	④産業の評価について、「第1次産業の維持が求められる。」の評価が作爲的だと考えられる。「今後も減少傾向・・・農業の維持が求められる」について、結論と理由が一致してない。減少している原因は何なのかが重要である。	表現を修正します。 ・「人口減少により、特に第1次産業（農業等）の担い手不足による減少が想定されるため、担い手や新たな働き手の確保が求められる。」 ・「宅地化の進行と高齢化により今後も減少傾向が継続することが想定されるため、農業振興や農業環境の維持・向上が求められる。」
南部地域	都市計画 マスタープラン	59	農業の記述がなく、農業地区の必要性が感じられない。	農業は文言として記載はありませんが、課題9や目標4に関連しています。 農業に限らず、工業、商業も含め、各産業の活性化は都市づくり上必要不可欠であると認識しており、特定の産業に特化することなく都市づくりの課題の多くに関連する事柄として捉え整理しています。

お住いの地域	計 画	ページ	意 見	対 応
南部地域	都市計画 マスタープラン	62	「農地の維持や緑、自然的景観の保全を図る」の表現によれば、農地は都市部のための緑の確保と景観のためのものという印象を受ける。農地の付加的価値というものでなければならない。	表現を修正します。 自然的景観の保全を図るとともに、身近な緑の拠点づくりや河川沿いの水と緑のネットワークなど、まちなかのうるおい空間の積極的な創出と保全を図り、人も環境も共存・共生し、持続的に発展する都市づくりを進めます。
南部地域	都市計画 マスタープラン	62	「農や緑と都市的環境とが調和した人も環境も共存・共生し、・・・」の意味が不明である。農とは農業と書くべきではないのか。農と農業の使い分けが不明だ。都市的環境とは何か。この語の対は自然的環境なのか。それは上の自然的景観とどう違うのか。	
南部地域	都市計画 マスタープラン	63	「農業の振興を・・・市街地居住ゾーンとの調和のとれた保全を・・・既存集落においては集落の活性化など良好な生活環境の維持を・・・」調和とは何か。	調和には農業振興ゾーンと市街地居住ゾーンが相互補完し合い、共に豊かになるような都市づくりを推進していく、という意味合いを込めています。
南部地域	都市計画 マスタープラン	71	・「農地を生産基盤のみ・・・」 ここでも、主体が都市生活者に置かれていると感じる。教育機関との連携が唐突に述べられている。最初と最後の関係性が全くない。書きたいのであれば、『教育的な価値も担っている』でいい。	表現を修正します。 「農地を生産基盤のみならず、農業体験などの教育的な価値を担うことや快適な都市生活を享受するための不可欠な要素として捉え、農業の振興・活用を図ります」 特に～以降は削除します。
南部地域	都市計画 マスタープラン	71	・「既存集落・・・ために、・・・適正かつ部分的な開発・・・」 真ん中の「新たな野々市ブランド・・・ために」までは不必要である。あえて制限を掛けている。『既存集落周辺の開発行為を部分的に認める』でいい。農振地区だから都市計画課は我関せずなのだろうか。 『農業の振興・活用を図りつつ、既存集落の維持発展を図ります。』とすべきである。	都市計画法において定められていない開発を容認するという表現にも捉えられるため、修正はしません。 既存集落部の農業活性化、集落活性化に資する開発を検討するという方針を示したものであり、新たな野々市ブランドの創出と農業就業の場づくりは、その具体的目的の例示として記載しています。

お住いの地域	計 画	ページ	意 見	対 応
南部地域	都市計画 マスタープラン	71	・「地区内の・・・、田園環境と調和のとれた良好な住環境の確保・・・」 「調和のとれた良好な」は行政用語にすぎない。何もしがないと言ってるのと同義ではないのか。「田園環境」が唐突に出てきた。これは何を意味するのか。	調和のとれた良好な住環境の確保は、何もしがないという意味合いではなく、住宅地の施設整備等の際には周辺環境への影響を及ぼさないようにする方針です。 「田園環境」は、「周辺環境」に修正します。
南部地域	都市計画 マスタープラン	71	・「水害・・・」 農地の持つ付加的な価値の一つである。この点をはっきりとさせるべきである。農地はあくまでも農業生産の場として機能しなければならない。	表現を修正します。 「水害防止の観点から、貯水という農地が有する付加的機能を有効活用するなど、防災上の利用策について検討を進めます。」
南部地域	都市計画 マスタープラン	78	「のッティ」について、中学生の通学の時間帯の運行を増やして欲しい。特に冬場の積雪があると厳しい。	貴重なご意見として承り、今後の市の政策の参考とさせていただきます。
南部地域	都市計画 マスタープラン	79	末松付近には、ボールを使用して遊べる場所や公園がない。平地で走り回ることができる広場もない。中心地の公園ばかりではなく、市内の端の方も充実させて欲しい。	貴重なご意見として承り、今後の市の政策の参考とさせていただきます。
南部地域	都市計画 マスタープラン	87	地下道について、防犯の観点から、子どもが安全な環境となるようにもっと広く、明るくして欲しい。	貴重なご意見として承り、今後の市の政策の参考とさせていただきます。
南部地域	都市計画 マスタープラン	88	雪害対策について、道路の中の方も除雪してほしい。	貴重なご意見として承り、今後の市の政策の参考とさせていただきます。
南部地域	都市計画 マスタープラン	80	・「農地は・・・」 ここでいう『保全』とは何もしがないことである。『整備・保全』と書くべきである。	表現を修正します。 「保全」⇒「機能の保全」 「保全」は何もしないことではなく、何もしがないと荒廃していくことになり、保全するためには手を加えることが必要であると考えます。
南部地域	都市計画 マスタープラン	86	・「農用地」と「農地」はどう違うのか。 「保全」は『整備し保全に努めます』にすべきである	ご指摘どおり、「農地」に統一します。

お住いの地域	計 画	ページ	意 見	対 応
南部地域	都市計画 マスタープラン	91	④南部地域 この文章は長すぎるので、意味不明となる危険性がある。 「・・・石川県立大学・・・資源を生かしながら、・・・」とそのあとの文章に違和感を感じる。最も重要なところなのだから、別文章建てにすべきだ。 ここで初めて「田園」ということがが使用されているのはなぜか。その周辺環境とは何を指しているのか。 やはり「調和」という言葉が気にかかる。	ご指摘どおり、「田園及びその周辺環境と・・・」の前で文章を区切ります。 田園は農地やその周辺の住宅も含めた一体的なエリアを示しており、そのエリアと市街地（市街化区域）の都市が分断されずに、環境を形成していく方針です。
南部地域	都市計画 マスタープラン	111	②田園環境、・・・ 田園都市ではない。 『田園環境整備マスタープラン』のことを言っているのか。 「農地の保全」は『農地の整備・保全』に変えていただきたい。 何回も言うけど、「保全」は何もしないという主張に聞こえる。 農、農業、農地、農環境、田園、田園環境等々、言葉の違いは意図的なのか。	田園環境は、農地に限定せずに、周辺施設も含めた一体的なエリアとして表現しています。 「保全」は何もしないことではなく、何もしないと荒廃していくことになり、保全するためには手を加えることが必要であると考えます。 ・「農」は「農地」に統一する。 ・「農業」と「農地」は意味あいを使い分けている。 ・「農環境」は、「農業環境」に統一する。 ・「田園」は、「田園環境」に統一する。
南部地域	都市計画 マスタープラン	112	■地域づくりの方向性 ・「田園環境、農環境の保全・活用」はもっと積極的に『農地の整備・保全による田園環境と農環境の活用』としてほしい。でも、田園都市計画ではないと思うが？ いつの間にか田園地域になった。農業地域ではなかったのか。	表現を修正します。 「田園地域」⇒「田園環境」に修正 「保全」は何もしないことではなく、何もしないと荒廃していくことになり、保全するためには手を加えることが必要であると考えます。
南部地域	都市計画 マスタープラン	113	基本目標 ・「農地の保全」を『農地の整備・保全』とすべきである。	「保全」は何もしないことではなく、何もしないと荒廃していくことになり、保全するためには手を加えることが必要であると考えます。

お住いの地域	計 画	ページ	意 見	対 応
南部地域	都市計画 マスタープラン	115	南部地区における既存集落は集落周辺も考慮して、黄色丸をもっと大きくすべきだ。集落は都市計画から除外されてると感じてしまう。	黄色丸については既存集落の位置について、おおまかに示すものであり、丸の中に限定するものではありません。
南部地域	都市計画 マスタープラン	—	南部地区の農業振興地域における農地と既存集落への思いが全く感じられない。生活者や人間の営みを全く感じるできなかった。	南部地域では、既存集落の活用や良好な居住環境の確保、地域コミュニティの維持を図る方針としています。
南部地域	都市計画 マスタープラン	—	計画書全体について、都市計画及び農業振興等の行政の縦割りを排し、現場での密な連携を図るようお願いしたい。	農業振興地域整備計画を同時に見直しており、担当部局と連携・調整しながら計画を検討しています。
南部地域	都市計画 マスタープラン	—	南部地域では市営墓地の情報がありませんでしたが、必要ないでしょうか。	中林地区における市営墓地については、活用の方針としてP113、P115に記載しています。
南部地域	緑の基本計画	31,37	GX（グリーントラストフォーメーション）とあるが、GX（グリーントランスフォーメーション）ではないか。	ご指摘どおり、誤りであるため修正します。